



「農林水産物・食品の輸出拡大のための
輸入国規制への対応等に関する関係閣僚会議」

牛肉輸出の現状・課題と 台湾向け牛肉輸出への期待

2022年3月28日

スターゼン株式会社

鶉橋 正雄

(ウズラハシ マサオ)

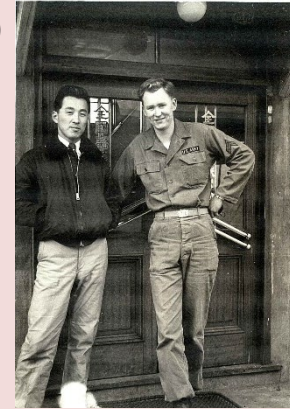
これまでの主な足跡

スターゼン

- 家畜の売買



- 在日米軍への牛肉納品



- 国内初の枝肉冷蔵輸送



- 日本マクドナルド向け製造開始



- 流通改革に貢献
枝肉から部分肉へ

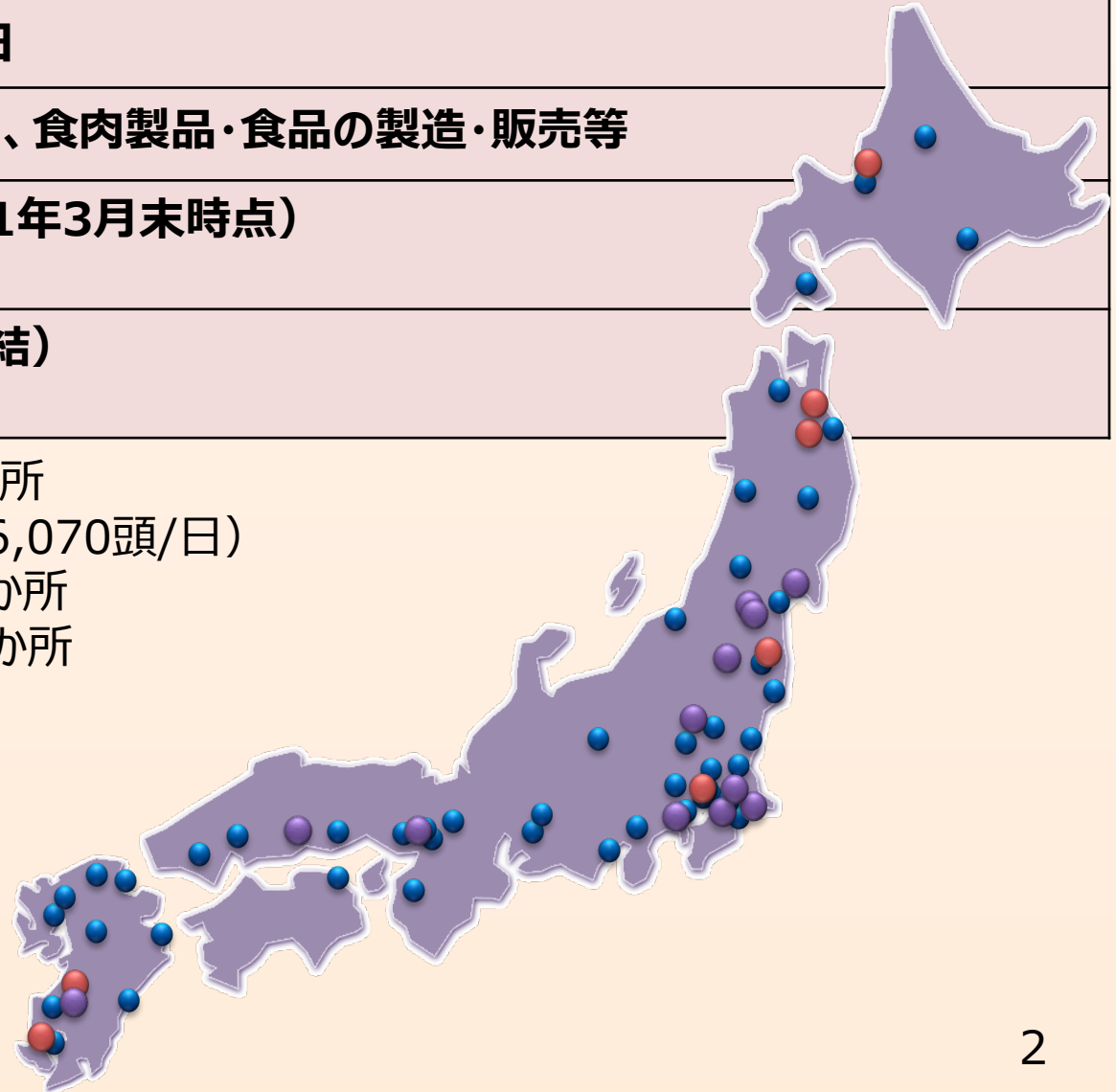


会社概要&国内拠点



設立	1948年6月17日
事業内容	食肉の加工・販売、食肉製品・食品の製造・販売等
社員数	2,674名（2021年3月末時点）
売上高	3,492億円（連結）

- 食肉処理施設 : 7か所
(加工能力:牛280頭/日、豚6,070頭/日)
- 加工品/プロセスセンター : 12か所
- 営業拠点 : 50か所



阿久根工場



輸出旗艦工場として、国際認証規格を取得し安全性と品質を確保

牛肉 加工能力：90頭/日、国内トップクラス25の国と地域へ輸出可能

豚肉 加工能力：1,400頭/日、5つの国と地域へ輸出可能



所在地：鹿児島県阿久根市

加工品製造工場

スターゼン

千葉工場：ハンバーガーパティ



所在地：千葉県山武市

松尾工場：ハンバーグ、ゼロミート



所在地：千葉県山武市



那須工場：ローマイヤブランド加工品



所在地：栃木県那須塩原市

キング食品：畜肉加工品、魚肉練製品



所在地：広島県福山市

海外拠点（6カ所）

スターゼンヨーロッパ
ヴァイル、デンマーク

スターゼンアメリカ
ロサンゼルス、米国

✓ 輸入拠点から輸出入拠点へ機能強化

スターゼンシャanghai
上海、中国

スターゼンバンコク/パンフード
バンコク/サムットサコーン、タイ

アディレクトシンガポール
シンガポール

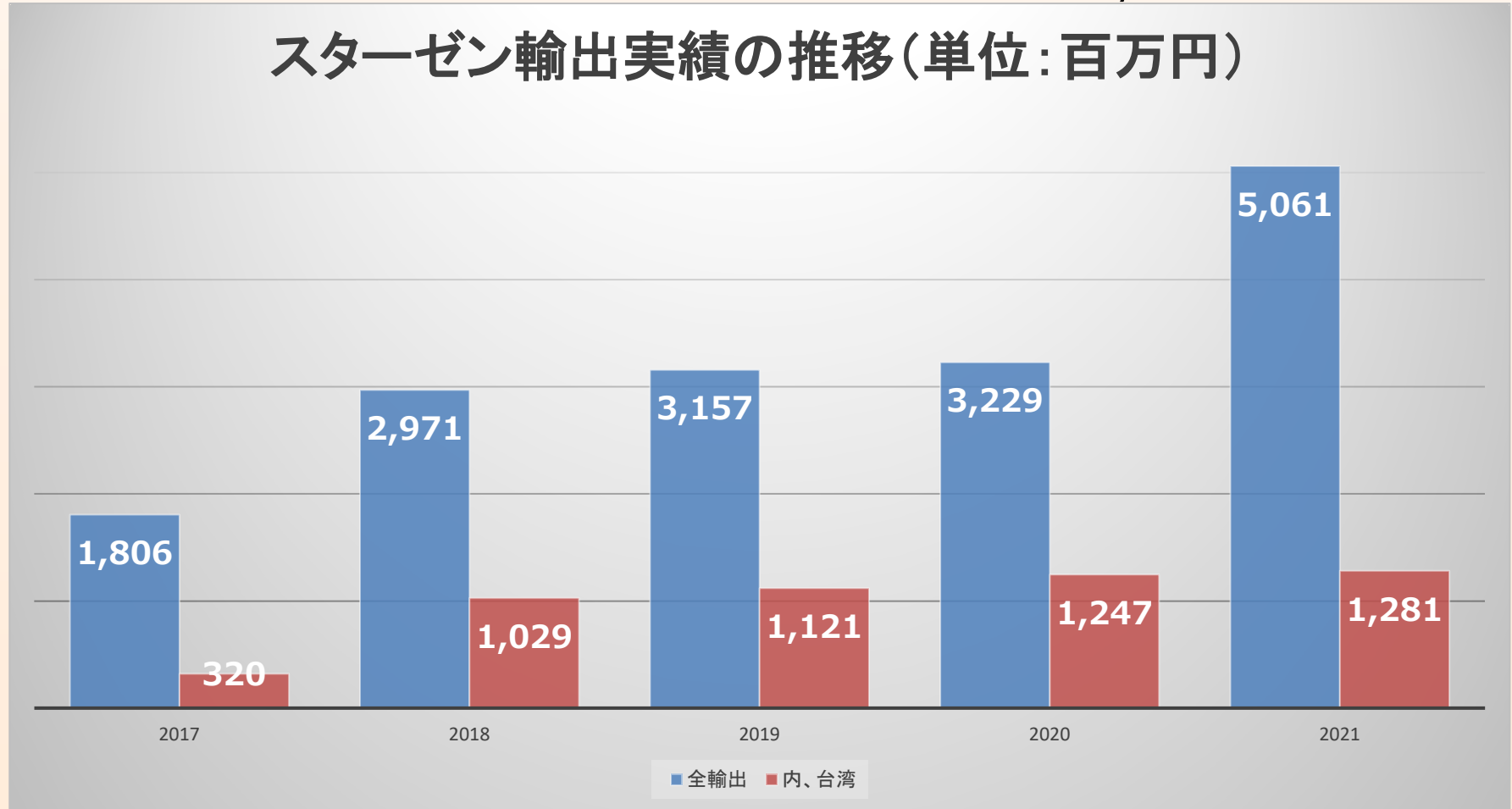
スターゼンオーストラリア
ブリスベン、豪州

牛肉輸出金額の推移



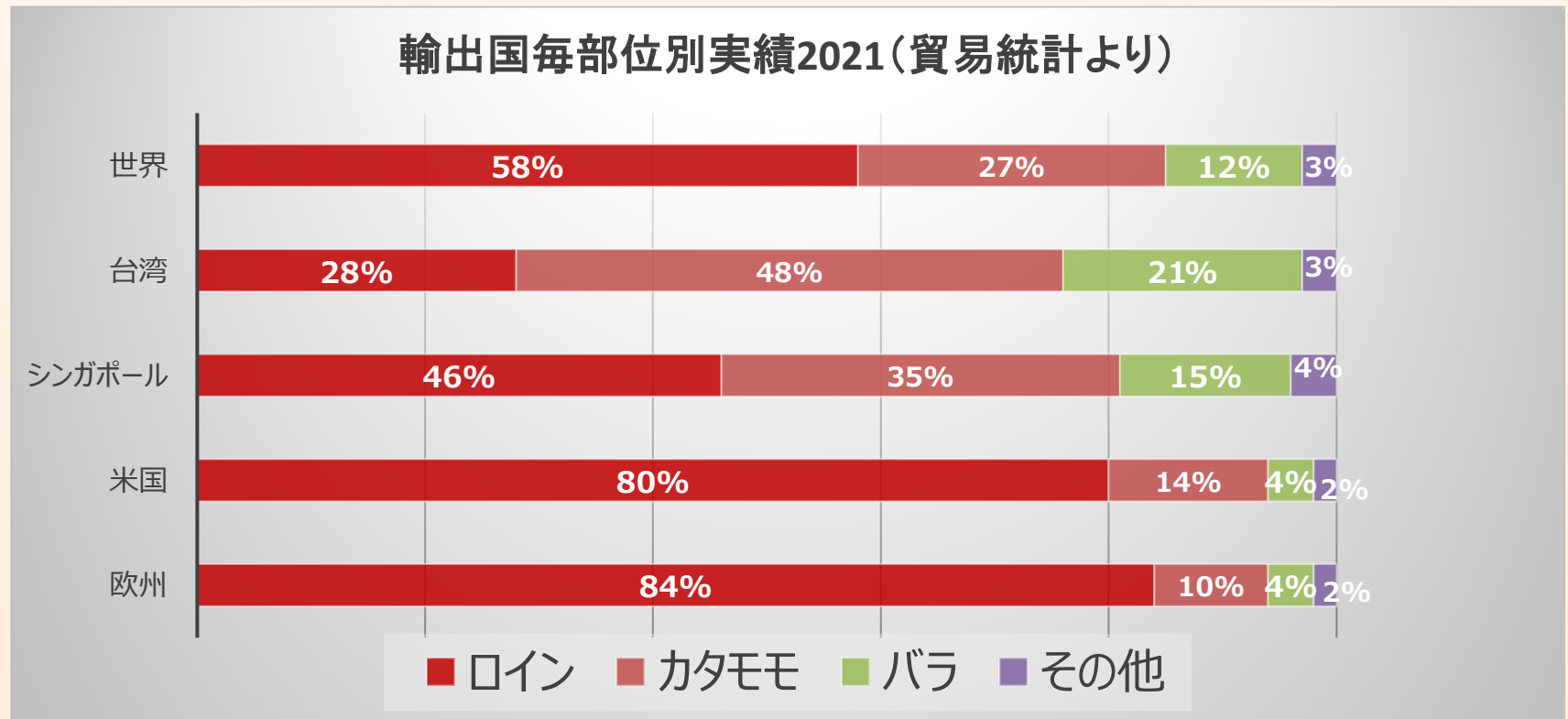
- コロナ禍による下げ相場等あるも、数量同様2017年比で約3倍増
- 中でも台湾向けの輸出は4倍増となっており、全輸出の1/4を占める

スターゼン輸出実績の推移(単位:百万円)



輸出拡大に向けた課題

- 欧米はロイン比率が80%と偏りが大きいことが課題
- 一方、台湾はロイン比率が低く、部位のバランスが良い



台湾は輸出拡大の有望市場、他国でも台湾モデルの展開が必要

台湾における取組例



- 輸出解禁当初より取組開始。焼肉、鍋向け等多様な部位を輸出

台湾向け輸出便出発式



現地焼肉店でのメニュー例



多様な部位を現地加工



焼肉や鍋など様々な需要があり、多様な部位の販売を実現

比較的安価な部位も消費され輸出が拡大。大きな市場へと成長

輸出拡大に向けたオールジャパンの取組

スターゼン

- ▶ 海外でのカッティングデモや海外食肉関係者の日本への招へいにより和牛の品質をPR

各国でのカッティングデモ



海外関係者の食肉関係施設への招へいによる和牛PR



コロナ禍以前は外食向け提案中心、今後は小売向けの提案

海外と食肉の分割方法の違いもあり、枝肉輸出が可能になるとより効率的か

産地の取組①（生産力の強化）



➤ 輸出可能国、認可施設の増加 ⇒ 供給能力を拡大

阿久根工場/25か国向け輸出可能



三戸工場/台湾向け認可取得へ



※輸出向けHACCP対応整備事業を活用

輸出向けの牛を増頭するため、生産段階の活動も強化

認可施設、農場とも人手不足は深刻。継続的な雇用強化が必要

産地の取組②（多様な部位の輸出促進）

 **スターゼン**

- 国内外でパック品を製造、多様な部位の販売によりユーザー層を拡大

輸出認可施設で加工



ステーキパックの輸出を開始



今後は焼肉等も展開予定



パック品製造者が不足、雇用強化及び設備の自動化を推進

認可施設だけでは限界あり、プロセスセンターからの輸出が必要

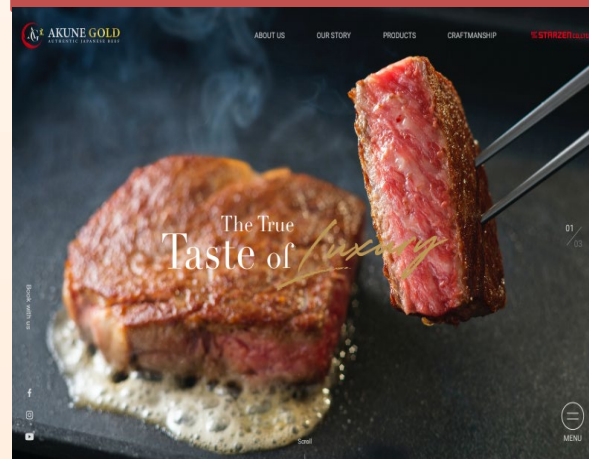
産地の取組③（自社ブランドの確立）

- 自社ブランドの立ち上げ・発信による各国の消費者へのP R

輸出向けブランド立ち上げ



ウェブサイトで消費者へP R



SNSへの投稿で認知度up



認知度向上による付加価値化とともに輸出量拡大を図る

ウェブ販促ツールの活用、海外拠点との連携による
更なる輸出拡大を目指す

牛肉輸出の課題と展望（まとめ）

2021年の日本の牛肉輸出は過去最高の重量7,879トン、金額536億円



2030年3,600億円の輸出目標達成のためには、生産量に対する輸出割合を高める必要



和牛の増頭を進めつつ、いかに効率良く輸出するか ⇒ 多様な部位を輸出



多様な部位を使う素地のある台湾などのアジアが重要マーケットに



多様な部位を使う新たなマーケットの開拓も必要